

7月のコミュニティバス試験運行の結果について

(1) 調査目的

試験運行を行っている**コミュニティバスの利用状況を把握**し、本格運行に向けた問題点や課題を整理し、改善策を検討する際の**基礎資料を得ることを目的**に調査を実施。

(2) 調査対象

幕別地区および札幌内地区を運行する**コミュニティバス利用者を対象に調査を実施**。全路線・全便について行った。

(3) 実証運行実施期間

平成24年7月1日（日）～平成24年7月31日（火） 7：50（始発）～15：50（終発） 計310便

(4) 調査実施方法

調査員がバスに乗車し、利用者数をカウントするとともに、**ヒアリング及び目視**により調査を実施。

(5) 調査内容

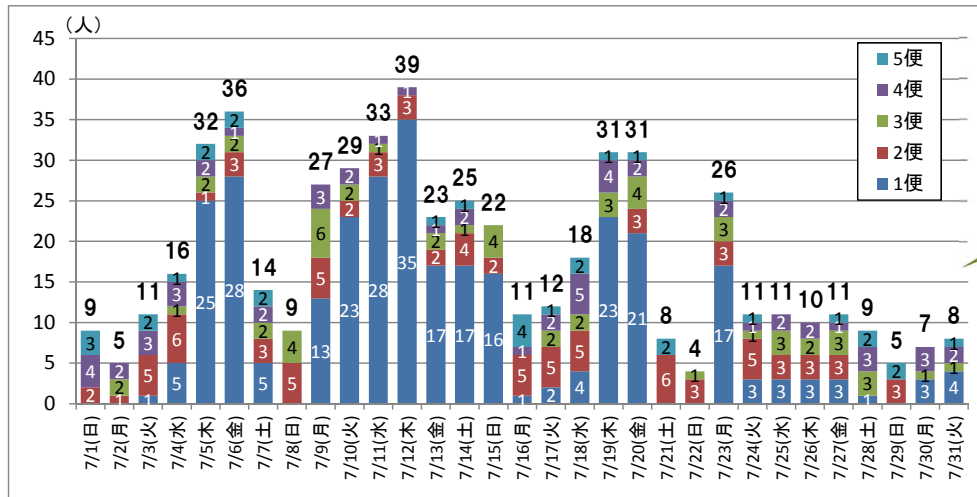
調査方法	調査項目	備考
ヒアリング	<ul style="list-style-type: none">◆乗車・降車バス停◆目的地◆利用目的（通勤・通学・買物など）◆利用頻度◆乗り継ぎ前後の移動手段◆乗車時間◆コミュニティバス導入前の交通手段◆コミュニティバス導入による外出機会の増加◆今後の利用意向	目視と併用で把握 徒歩・自転車、車、JR等
目視	<ul style="list-style-type: none">◆利用者数◆性別（男・女）◆年代（子供、学生、一般、高齢者）◆子供等の同乗者の有無	バス停別、利用区間別（OD）に把握

7月のコミュニティバス試験運行の結果について

(6) 調査結果

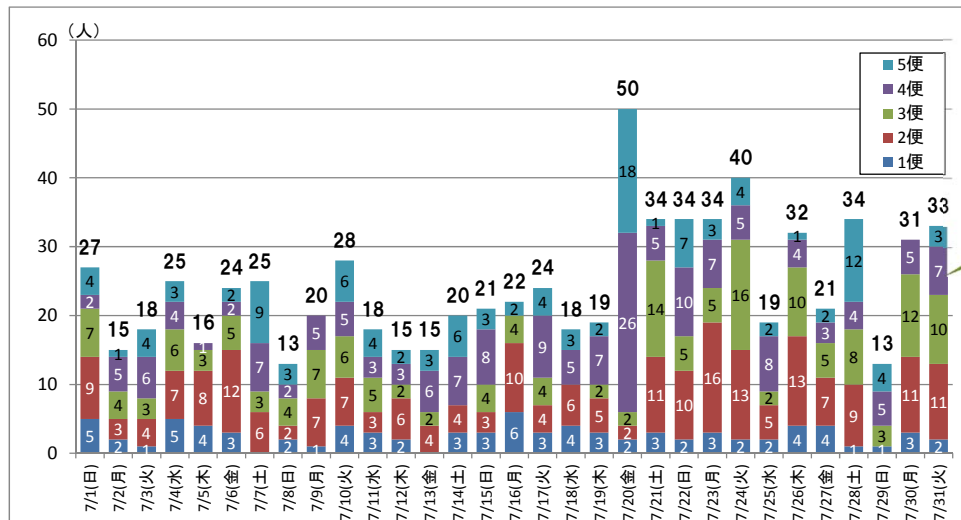
▼試験運行期間中（7/1～7/31）の利用者数については、**幕別線で543人（1日平均17.5人、1便平均3.5人）**、**札内線で758人（1日平均24.5人、1便平均4.9人）**であった。

【幕別線】



・543名が乗車
 ・1日平均17.5人
 ・1便平均3.5人

【札内線】

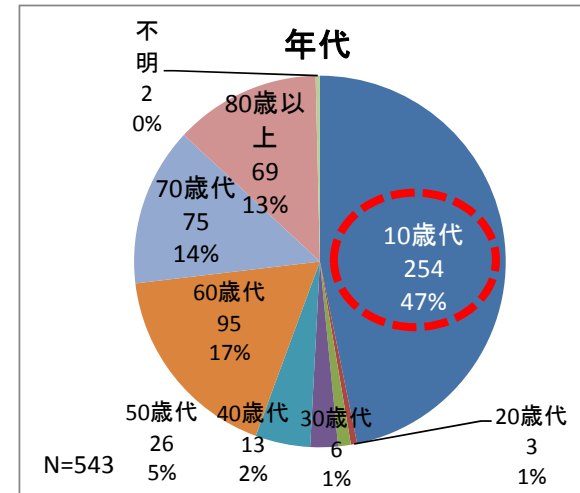
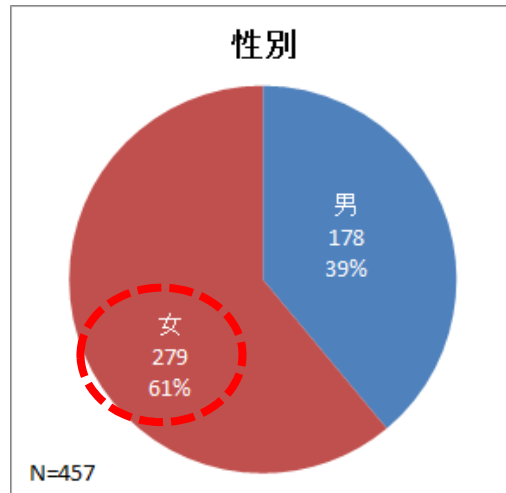


・758名が乗車
 ・1日平均24.5人
 ・1便平均4.9人

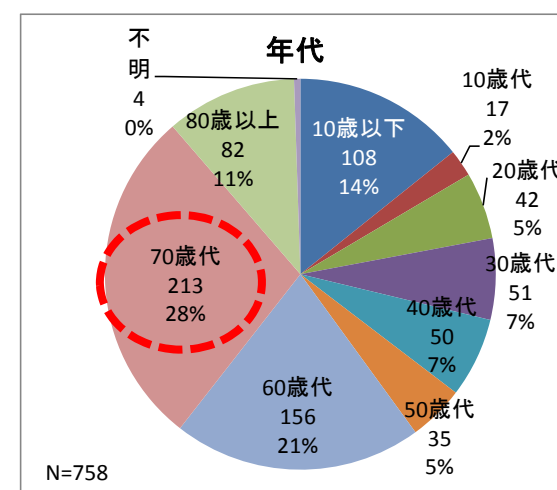
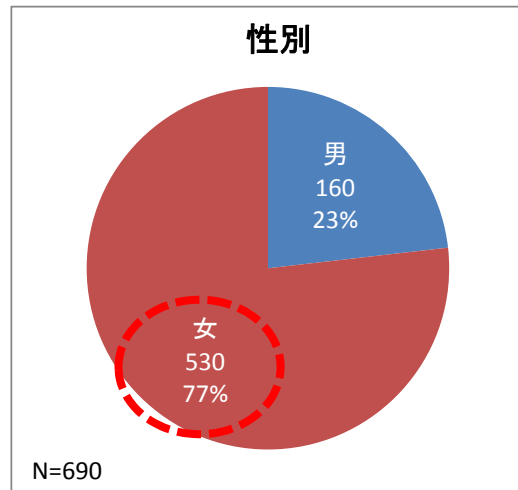
7月のコミュニティバス試験運行の結果について

▼性別は幕別線、札内線共に**女性が半数以上**を占めており、年代は**幕別線においては10歳代が約5割**、**札内線においては70歳代が約3割**と最も多くなっていた。

【幕別線】



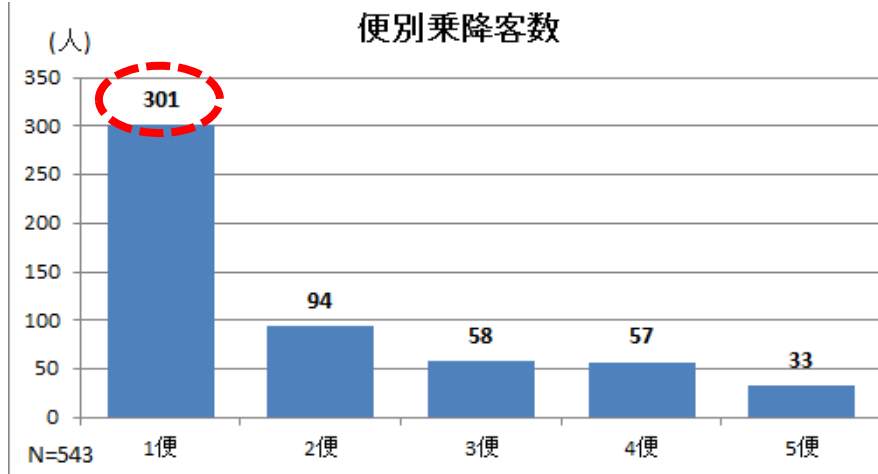
【札内線】



7月のコミュニティバス試験運行の結果について

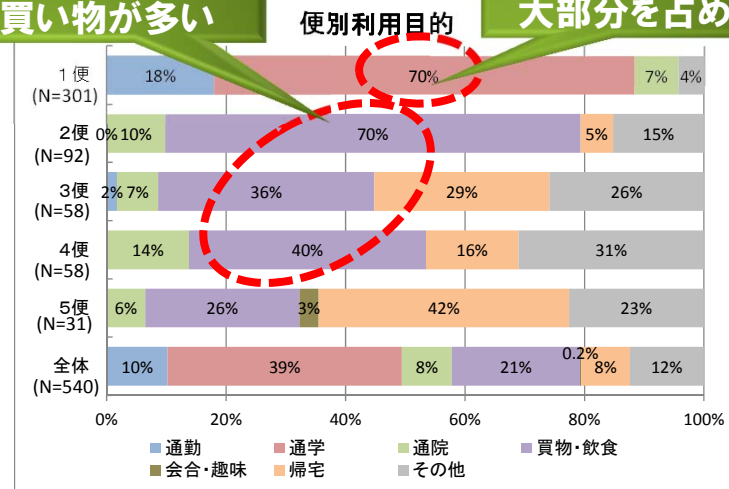
- ▼便別乗降客数は、幕別線では1便が最も多く、札内線では2便が最も多かった。
- ▼各便の利用目的をみると、幕別線においては1便の通学、2便～4便での買い物が多くなっていた。札内線では、その他目的（老人福祉センター、試乗など）の割合が全便において高くなっており、1便での通院、3便・5便において帰宅の割合も高くなっていた。

【幕別線】

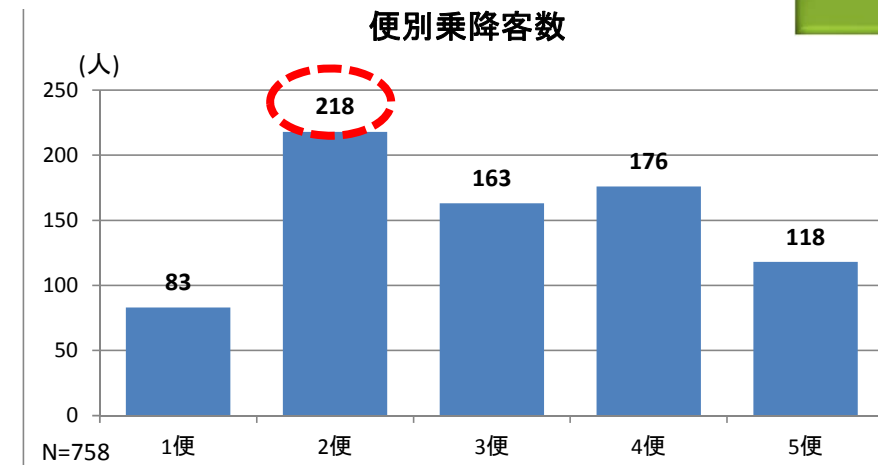


2便～4便での
買い物が多い

1便は通学が
大部分を占める

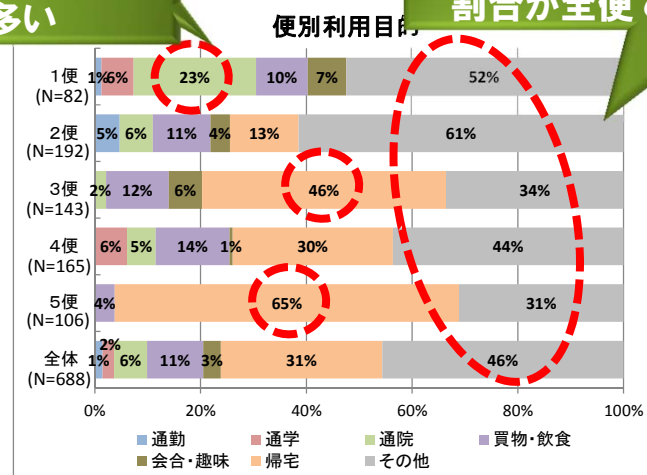


【札内線】



1便での通院
多い

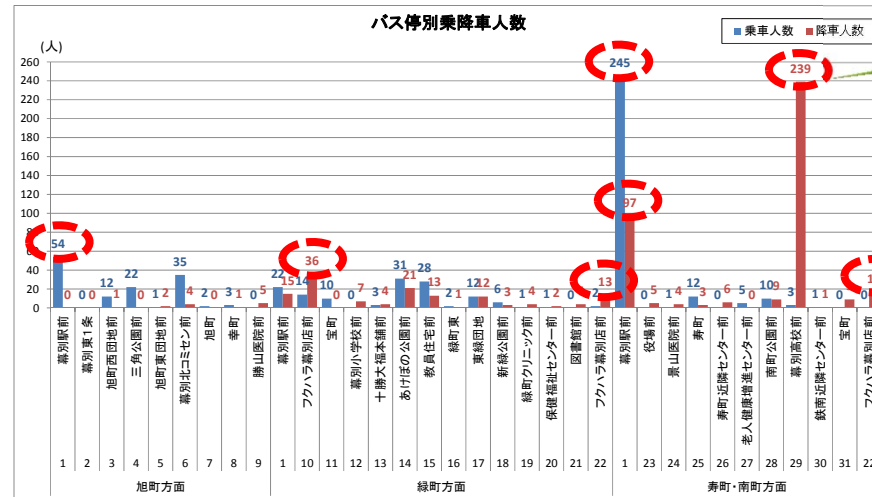
その他目的の
割合が全便で高い



7月のコミュニティバス試験運行の結果について

▼路線別バス停別の乗降者数をみると、各路線ともJR駅での乗降が多くなっていました。また、その他、幕別線は“幕別高校前”での降車が多く、札内線は“ぴあざフクハラ札内店前”や“ダイイチ札内店前”、“さつない耳鼻咽喉科前”、“老人福祉センター前”での乗降が多くなっていました。

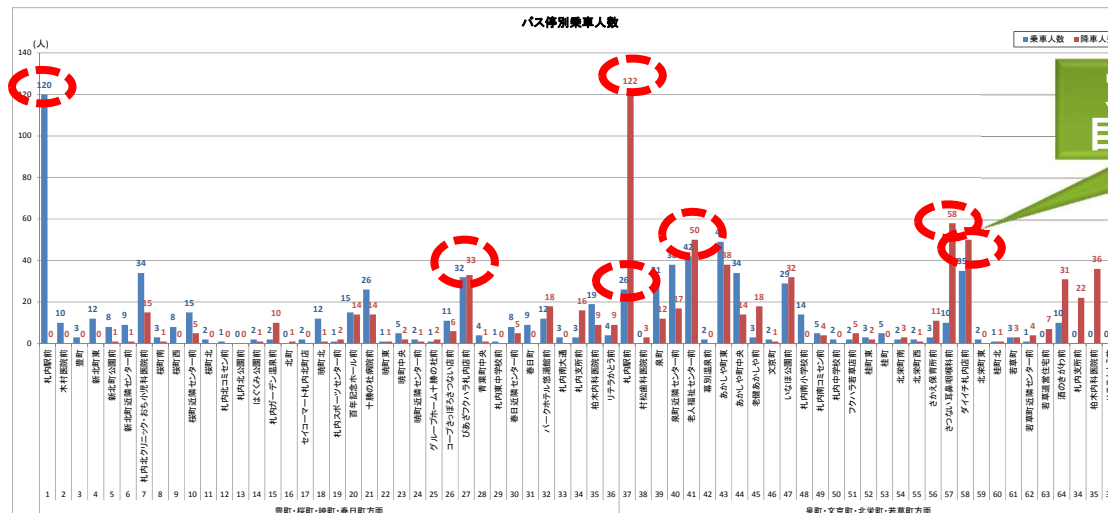
【幕別線】



幕別高校への通学利用が多い

フクハラ幕別店への買い物利用が多い

【札内線】

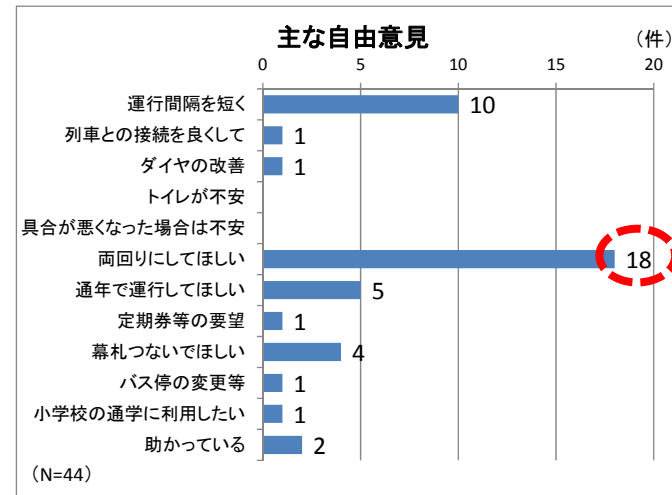
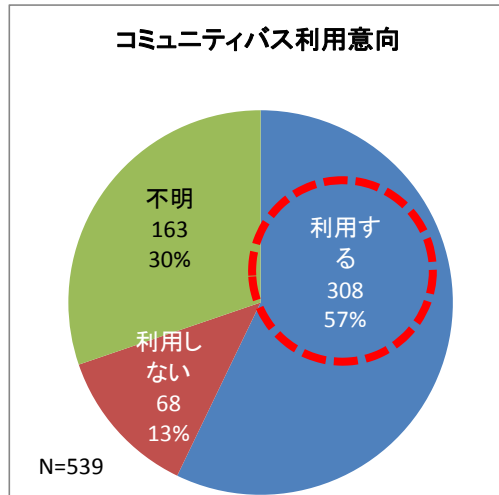


買物・通院等様々な目的で利用されている

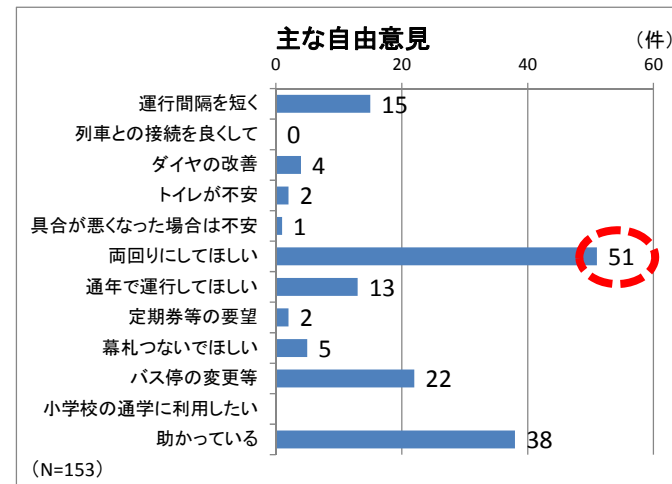
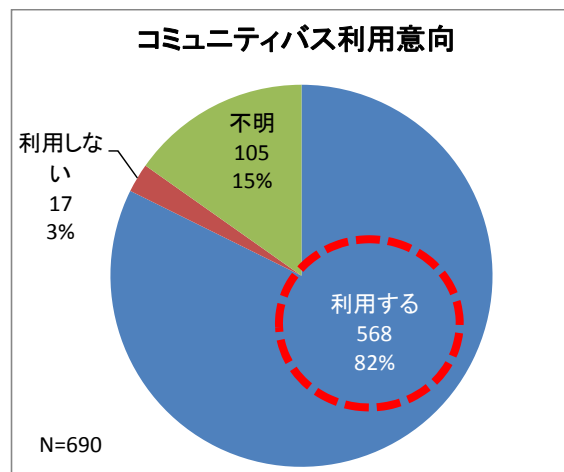
7月のコミュニティバス試験運行の結果について

- ▼路線別のコミュニティバスの今後の利用意向をしてみると、**幕別線は約6割、札内線は8割以上が利用する意向**がある。
- ▼主な自由意見については、**幕別線、札内線共に「両回り運行」への要望が多かった。**

【幕別線】



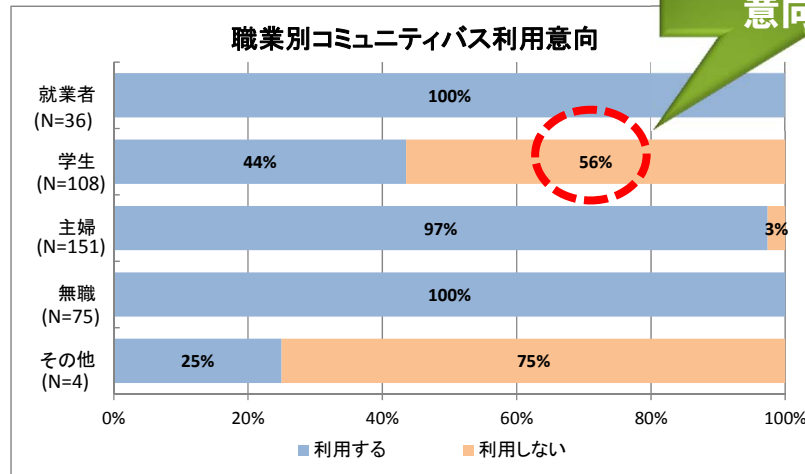
【札内線】



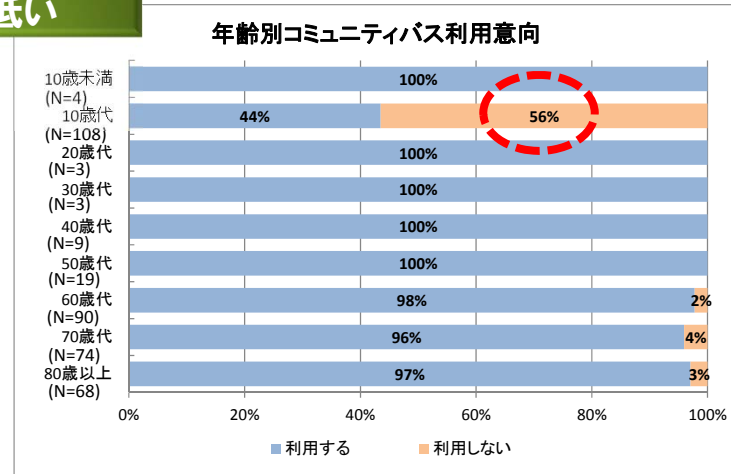
7月のコミュニティバス試験運行の結果について

▼路線別の今後の利用意向を職業と年代別にみると、**幕別線において学生、及び10歳代の約6割が「今後は利用しない」という意向がみられた。**

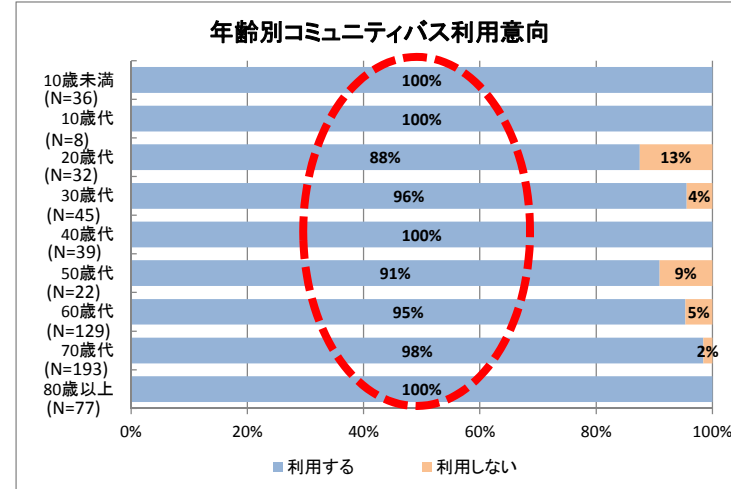
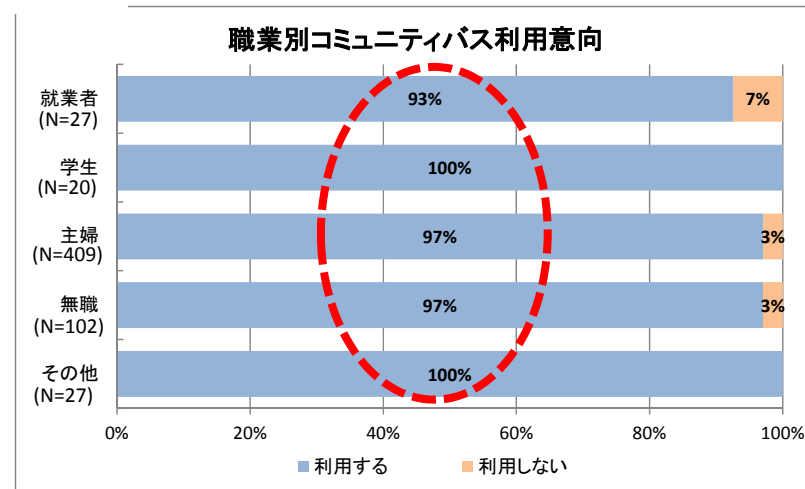
【幕別線】



学生は利用する意向が低い



【札内線】



7月のコミュニティバス試験運行の結果について

課題①:利用者の少ないバス停や今後の利用意向を考慮した路線の改善

幕別線・札内線共に、JR駅での乗降が最も多くなっているが、一方でほとんど乗降がないバス停もあった。幕別線においては、幕別高校前が幕別駅に次いで乗降が多いが、学生の約6割が今後は利用しない意向を持っている。また、幕別線・札内線共に「両回りにしてほしい」という要望が多かった。

【対応策①】バス停・運行ルートの見直し

今回利用の少なかったバス停や、利用者の意向・要望を考慮し、バス停・運行ルートの見直し、及び両回りルートの検討を実施。

課題②:運行ダイヤの見直しが必要

現状、運行に遅れが生じている状況であり、運行時間にゆとりを持たせる調整時間が必要である。また、買物等で利用後に、帰りのバスが無い場合、運行間隔の改善を望む声が多かった。

【対応策②】施設滞在時間や帰り便の待ち時間を考慮した運行ダイヤ・起終点の見直し

買物等の施設での滞在時間や、帰り便を待つ間の待合スペース確保等を考慮し、起終点と運行ダイヤの見直し検討を実施。

課題③:走行性や安全面を考慮した運行ルートの見直しが必要

現運行ルートには、道幅の狭い住宅地や、施設内を通過するルートが含まれているが、冬期の道路状況等を考慮すると、バスを運行する際の安全面への配慮が必要。

【対応策③】安全性の高い道幅の広い道路への運行ルートの見直し

道幅の広い道路を基本とした、安全性の高い道幅の広い道路への運行ルート見直し検討を実施。